

国語科指導案

1 単元名 自らの考えを 「多角的に分析して書こう」

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。
- ・表現のしかたを考えたり資料を適切に使用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、出口を「説得力のある批評文を書く」言語活動とし学習を進める。「批評文」とは、対象とする事柄の特性や価値などについて評価して論じた文章のことである。どのような人間にも批判の精神はあり、生徒にとって、これから先は批評から選択の連続である。そのため、評価するための観点を設定し、根拠を明らかにして述べることを求める。生徒は第一時で教科書の資料や教師が用意した広告を分析し、本時からは生徒自らが選んできた対象について批評文を書いていく。批評の対象は主に広告である。私たちの身の回りには様々な広告があり、それらを客観的に分析することで、自分の生活に生かしていくことができる。インパクトがあり、ユニークなものも多く、生徒たちにも興味をもてる材料である。さらに、さまざまな広告を目にしたり探してきたりすることによって、様々な視点から多様な考え方が生まれる。

また、3年生のこの時期は、小論文を書く力や面接などで説得力のある考えを述べる力を意識する時期でもある。説得力を支えるものについて考えを深めるという目的を示すことで、意欲的に生徒が取り組めるだろう。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時は、批評文に向けての構成表を作成する。自分が選んで用意した対象を様々な観点で分析していき、対象が一番述べたいことを読み取ったとき、どんな構成で批評文を書くと説得力があるかを考えていく。本時までには、前教材の「人工知能の未来／人間と人工知能と創造性」において、2つの文章を比較することから、それぞれの文章のよさや特徴を評価していく学習を行っている。また、前時では、教師が提示した対象の批評をし、批評する観点の例をいくつか挙げている。それらを参考にして、自分がどのように対象を見て、何を感じ、何故そう感じたのかをまとめていく。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

単元における付けたい力は、「物事を批評するとき観点を絞って考えたり、客観的に見たりすることによって根拠をより説得力のあるものにできる」と設定した。そのために単元構造図では、実態に合わせて学びの蓄積を予想し、単位時間ごとの身に付ける力を明確にした。

また、「見方・考え方」においては、どんな見方・考え方を働かせるのか明確にし、「多角的な学び」を生み出す視点を位置付けた。

研究内容2 実態分析からの授業改善

・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

本単元では、対象の分析の精度を上げていかなければ間違った解釈や、まとまりのない批評文になってしまうため、対象を3段階で変化させ分析の精度が上がるようにした。1つ目は教科書に掲載されている広告にし、どこをどんな観点で着目し分析すればよいのかを分かりやすくした。2つ目は教師が選んだ広告で、様々な観点が増えた後にそれを生かして分析を行い、3つ目は生徒が自ら対象を用意する形にし、意欲的により深い分析に取り組めるようにした。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

・学習を振り返る活動の工夫

本時は、評価の中心となる構成表の作成を行う。自分が作成している構成表の変容が一目でわかった方が、学びの蓄積や仲間の意見によって自分の考えが変わっていったり深まっていたりすることの実感を得られると考えた。

構成表はiPad、プリント、ノートなど、生徒が学びを振り返りやすいものを選択できるようにした。また、批評文の完成に向けての進捗状況の確認にもなり、教師が生徒の考え方の変容、学びの蓄積を捉えやすく、個別の指導のしやすさにもつながっていく。

5 本時のねらい

自分が選んだ対象を分析することを通して、分析したことの共通点を見つけ、対象が一番述べたいと思うことを考えることができる。【思考・判断・表現】

【単元構想図】 単元名：自らの考えを 教科名：「多角的に分析して書く」

【単元の目標】

- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について図解を深めることができる。【知識及び技能】(2)ア
- (2) 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の整理性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができ、【思考力・判断力・表現力等】B(1)ア
- (3) 文章の信頼性を確認し、多様な読み手を想定できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。【思考力・判断力・表現力等】B(1)イ
- (4) 表現のしかたを考えた資料を適切に使用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。【思考力・判断力・表現力等】B(1)ウ
- (5) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己向上させ、我が国の書文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

【言語活動】

「世の中にある広告の分析を通して、一書述べたいことを明らかにし、批評文を書く。」

【生徒の実態】

言葉から、登場人物の心情や場面、物の移り変わり、文の構成を読み取ることで、生徒が多い。しかし、そこから言葉と言葉をつなげて、読み取り、心情を想起することが難しく感じている。文章を書くことは指定された条件の中で書くことが大半で、読者の手ごたえが、どのくらいか、どんな思いか、相手意識がもたれていないことがある。

【既習事項】

1年 「根拠を示して説明しよう」
2年 「結論や展開を捉えて話し合おう」
3年 「根拠の適切さを考えて書くこと」
4年 「立場を尊重して話し合おう」
5年 「作られた物語」を捉えて、「説得力のある構成を考えよう」
6年 「言葉を選ぼう」
7年 「人工知能の未来」と創造性

第1時【ねらい】 批評文のイメージを明確にし、学習の流れと目標をつかむことができる。 (対象一例示① 例示②)	第2時【ねらい】 自分が選んだ対象を分析することを通して、分析したことの共通点を見つけ、対象が一書述べたいと思うことを考えることができる。(対象二例示)	第3時【ねらい】 構成を確認し、伝えたいことと明確にすることができ、【知識及び技能】(2)ア	第4時【ねらい】 構成表を基に、批評文を書くことができる。	第5時【ねらい】 批評文を読み合い、自分の考えを深めることができる。
【課題】 広告の批評をし、批評文について理解しよう。	【課題】 分析を根拠にして、対象が一書述べたいことを明らかにしよう。	【課題】 説得力のある構成や読み手をつける書き出しを考えよう。	【課題】 構成表を基に、批評文を書く。	【課題】 批評文を読み合い、感想を伝え合おう。
【学習活動】 「批評」がどのようなものか、例示された広告の批評をする。 批評をしたポイントと、学習の見通しをもつ。	【学習活動】 自分の対象を「批評」する。 批評文に書くポイントを決定する。 決めたポイントについて自分の考えを深める。 対象が一書述べたいこと、文章の構成表を書く。	【学習活動】 構成表を吟味する。 構成表を確認し、仲間と伝え合う。 書き出しの列を確認する。 仲間と交流したことをもとに批評文を書く。	【学習活動】 対象を見せながら批評文を話し合う。 文章の展開について感想を伝え合う。 今後生きていく上で物事を考えたり伝えたりするときに必要なことを書く。	【学習活動】 対象を見せながら批評文を話し合う。 文章の展開について感想を伝え合う。 今後生きていく上で物事を考えたり伝えたりするときに必要なことを書く。
【評価標準】 ノート 「批評」がどのようなものかを知り、学習の流れを理解している。	【評価標準】 構成表 批評文に必要な観点を決め、対象の分析をし、文章の構成をしている。	【評価標準】 構成表・交流 説得力がある構成にするために、仲間からもらった意見を構成表に反映させている。	【評価標準】 プリント 構成表を基に批評文を書き進めている。	【評価標準】 ノート 物事を考えたり伝えたりするときに必要なことを捉えている。
【見方・考え方】 対象の選択・観点・比較	【見方・考え方】 観点・比較	【見方・考え方】 順序	【見方・考え方】 言葉の選択	【見方・考え方】 考えの構築
【生徒の意識】 批評とは、ある物事のよさや特長などについて理由や根拠をもつて論じる文章のこと。つまり、ある対象に対して自分が根拠をもつことが大切だ。	【生徒の意識】 一つの観点を分析を深める自分と自分の考えが広がっている。それによって、一書述べたいこと、からぶれないように考えないという説得力がなくなってしまうので、すべてそこに立ち返るように構成を考える必要がある。	【生徒の意識】 仲間の意見のおかげで、説得力が一つあると思える構成表を確認することによって、文章がパターン化され、文章に抑揚をつけていく中で観点の内容を広げたいことを明確にしておくこと、完成するとわかった。	【生徒の意識】 教科書に書いてある批評するときの言葉を確認し、さまざまな言葉を使用することによって、文章がパターン化され、文章に抑揚をつけていく中で観点の内容を広げたいことを明確にしておくこと、完成するとわかった。	【生徒の意識】 物事を批評するとき、観点で捉えていくことが大切だとわかった。また、自分の考えを、今回仲間がやってくれたように客観的に見ることで、さらに自分の考えを深め、根拠をより説得力のあるものにすることができた。

【目指す生徒の姿】

物事を批評するとき、観点で捉えていくことが大切であると理解し、自分の考えと客観的に見ることで、さらに考えを深め、根拠をより説得力のあるものようにしている。

【単元の評価標準】

- (1) 知識・技能

①(2)ア

具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。

- (2) 思考・判断・表現

①B(1)イ

「書くこと」において、文章の信頼性を確認し、多様な読み手を想定できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。

②B(1)ウ

「書くこと」において、表現のしかたを考えたたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。

(3) 主体的に学習に取り組む態度
粘り強く資料のしかたを考えたたり資料を適切に引用したりし、学習の見通しをもって批評文を書くこととしている。

7 単元指導計画

- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。〔知識・技能〕(2)ア
- ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕B(1)ア
- ・文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕B(1)イ
- ・表現のしかたを考えたり資料を適切に使用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕B(1)ウ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔主体的に学習に取り組む態度〕学びに向かう力、人間性等

時間	学習活動	知	思	態	評価規準
1	【学習活動】 ・「批評」がどんなものなのかを知る。 ・例示された広告の批評をする。 ・観点をまとめる。 ・学習の見通しをもつ。	●			ノート ●「批評」がどのようなものかを知り、学習の流れを理解している。【対象の選択】【観点】
2	【学習活動】 ・自分の対象を「批評」する。 ・批評文に書く観点を決定する。 ・決めた観点について自分の考えを深める。 ・対象が「一番述べたいこと」を考える。	●			構成表 ●対象の分析をし、対象が「一番述べたいこと」をまとめることができる。【観点】【比較】
3	【学習活動】 ・構成表を吟味する。 ・構成表を確認し、仲間と考えを伝え合う。 ・書き出しの例を確認する。 ・仲間と交流したことをもとに批評文を書き始める。		○		ノート・構成表・交流 ○説得力がある構成にするために、仲間からもらった意見を構成表に反映させている。【順序】
4	【学習活動】 ・批評文を書く。		○		プリント ○構成表をもとに批評文を書き進めている。【言葉の選択】
5	【学習活動】 ・対象を見せながら批評文を読み合う。 ・感想を伝え合う。 ・今後生きていく上で物事を考えたり伝えたりするときに必要なことを書く。	○	○		ノート ○物事を考えたり伝えたりするときに必要なことを捉えている。【考えの構築】

○…評価に用いる評価

●…学習改善につなげる評価

8 本時の展開(2/5)

時間

学習内容

研究内容とのかかわりや指導援助等

1 課題をつくる展開

○分析をする上で必要だと思う観点を挙げる。

- ・キャッチコピー
- ・字体
- ・全体の印象
- ・構図
- ・字の大きさ
- ・制作者の意図

・構成表を見て、作成するものの見通しをもつ。

分析を根拠にして、対象が一番述べたいことを明らかにしよう。

05

10

2 追究、交流などの展開

○自分が用意した対象を分析する。

・前時挙げた観点を参考に、対象の分析を行う。

33

3 深める展開

○自分が分析したことを観点が同じ仲間に伝えたり、対象のジャンルが似ている仲間の分析を聞いたりしてさらに多角的に対象を分析する。

交流Ⅰ 対象が似ている仲間との交流

Aさん

私はこのポスターを見て、言葉よりも画像が伏しき書かれているから、「構図」という観点から「ベイマックス」というキャラクターのかわいらしさが伝わるなと思いました。

Bさん

私はこのポスターを見て「SHOW」という言葉が同じ大きさで3つ大きく書かれているから、観点は同じだけど、岐阜県に来てくれた人に対して「見せたい」「魅せたい」という気持ちを伝えたいのだと思います。

Aさん

Bさんの分析を聞いて、言葉に着目して自分の対象を見た時に、「優しさで世界を救えるか？」の言葉が無くてベイマックスの画像だけだったら「かわいらしいキャラクター」だけで終わるけど、この言葉があることによって、自然と優しさについて考えるので、見た人の目を引くものとして「言葉」も重要な。

Bさん

Aさんの分析を聞いて、私の対象はやっぱり写真よりも言葉の連続でインパクトを与えているからこの観点のまま考えていこう。

交流Ⅱ 分析をする上で必要な観点が同じ仲間と交流する。

①Cさんは私の選んだ対象と似ている映画の「ポスター」だから同じ観点でも違う見方があるかもしれない。Cさんと交流してみよう。

①Dさんの対象は映画のポスターじゃなく、市のポスターだから同じ観点でもちがう分析をしているかもしれない。Dさんと交流してみよう。

4 学習を振り返る活動

40

私の対象は「愛」を一番伝えたいのだと考えました。本来ロボットは感情をもたないはずですが、ベイマックスが「あなたの心とカラダを守ります。」と言っていて、二人が抱き合っている構図から、「愛」や「優しさ」というのが伝わってくるからです。つまり「優しさから生まれる愛の大切さ」が一番述べたいことだと思います。

展開時に参考となる観点なため、まとめたものを iPad で共有する。また、挙がっていない観点も見つけたら使ってもよいことを伝え、思考の幅を広げさせる。

広告が PR するものであるということから、前時の対象を例に出し、何を伝えたいのかを問い、課題につなげる。

観点において、前時に学習していないものを選択した生徒に、広告を客観視できるように、「一番述べたいこと」「観点」「分析」が明記できるワークシートを配付する。

予想されるつまづき

・対象をどの観点で分析すればよいのかわからない。
・対象を決めていない。

☆C⇒B への手立て

☆対象を分析しやすい広告や既習の広告を用意し、分析をさせる。

☆「キャッチコピー」と「全体の印象」に観点を絞らせる。生徒がもつ率直な感想が分析となることを気づかせる。

・考えを後に交流することを伝えることで、相手意識をもち、自分の考えをより伝わりやすい言葉を選んで書くことを考えながら分析をさせる。《観点》

・仲間からもらった意見で共感した部分はメモをしたり、自分の考えに変化を与えたものは書き換えたりして、自分の分析に役立てるように指示す《比較》

・分析したことの共通点から一番述べたいことを考えたり、一番述べたいことから共通点のある観点で分析したりして文章構成に一貫性があるようにする。《対象の分析》

評価規準（構成表）

【思考・判断・表現】

●対象の分析をし、対象が「一番述べたいこと」をまとめることができている。

国語科指導案

1 単元名 論理を捉えて 「モアイは語る―地球の未来」

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・意見を裏付けるための根拠の在り方（客観性、信頼性、意見と根拠のつながり）について理解することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・説得力を生む文章の構成や論理の展開についてよく考えることができる。
- ・根拠の適切さを考えながら、説得力のある意見文になるように工夫して書くことができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・説得力を高めるための根拠の適切さや論理の展開について、文章を読んで理解しようとしたり、自分で書こうとしたりすることができる。

3. 指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、立場を明確にしたうえで適切な根拠の在り方と論理的な表現の仕方について学習する。「モアイは語る―地球の未来」では、意見を裏付ける適切な根拠の在り方と、説得力を高める文章の構成や論理の展開を吟味する（読むこと）。どのような根拠が意見を支える適切な情報になるのか（客観性、信頼性、つながり）、どのように表現したら説得力を高められるのか（文章の構成、論理の展開）を論説文の読み取りにおいて理解する。次に「根拠の適切さを考えて書こう」において、自分の立場と根拠を明確にしながら意見文を書いていく（書くこと）。現代社会において、自分の意見を述べるときに、適切な根拠を明確にしながら自分の考えを形成し、読み手に伝えようとすることはとても重要である。自分の意見を思いで主張するのではなく、客観的な根拠を示しながら自分の意見を形成すること、さらにそれらを論理的に表現することで、説得力のある文章を書ける生徒の育成を目指す。

(2) 本時の指導について

アンケートによる国語に対する生徒の意識を調査では、学級の半数以上が説明的文章に対して苦手意識を持っていた。その理由として「内容を正確に読み取れない」「結局何が言いたいのか分からない」という意見があり、本文の内容を理解することに苦戦している生徒が多くいることがわかった。逆に、「自分の意見を書くこと」に対しては、ほとんどの生徒ができると回答しており、「仲間と話し合うこと」も同様に好きと回答している。よって、筆者の疑問、答え、根拠を補助的に明確化しながら内容理解を促すとともに、論理の展開を捉えやすくする。また、「書く」の言語活動においては、それぞれ観点を示すことで、どうやったら説得力を高める文章が書けられるのかを理解し、自分で考え、表現できるように単元を組み立てた。

(3) 生徒の実態

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構想図の作成

- ・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

単位時間ごとに働かせる見方・考え方を位置付けた。本時にあたっては、「文章の構成」と「論理の展開」を設定した。筆者の主張に「説得力」があるかどうかを考える。

研究内容2 実態分析からの授業改善

- ・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

自分の意見と比較しながら仲間の意見を聞き新たな意見を得るために、小集団交流を位置付ける。イースター島の事例があることでの筆者の主張に説得力があるか、文章の構成や論理の展開に説得力があるかを吟味する。個人追究で自分の考えを書き、小集団交流で仲間の意見を聞きながら思考を整理する。

研究内容3 自己の変容と学びを実感させるための評価の工夫

- ・1単位時間の評価の位置付けと工夫（自己評価、他者評価、教師評価）

単元の終末に単元のまとめを位置付けている。この単元で自分がどんなことを理解して何を実践できたかを明らかにすることで、変容と学びの実感を与える。そのために、単位時間の学びを蓄積していく。課題に対して自分が分かったことや気が付いたことを言語化することで思考が整理され、学びの定着と蓄積を図る。

5 本時のねらい

筆者の説明の工夫を探す学習活動を通して、文章全体を見たときに、自分の意見だけではなくそれに基づく意見と根拠があったり、現在の地球と共通点の多いイースター島の事例という、主張に説得力を持たせるものを示したりしていることに気付かせる。【思考・判断・表現】

8 本時の展開(4/10)

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等
00	1 課題をつくる展開 ○前時に行ったイースター島と地球の共通点と筆者の主張を生徒のノートから確認する。 イースター島のたどった歴史と現在の地球は、人口爆発や森林の消滅、食料や資源の不足についてとても似ていることがわかった。その資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を私たちは考えないといけないと筆者は言っている。	・前時まとめたイースター島との共通点を確認し、生徒の前時の感想を電子黒板に提示する。
03	課題 文章の構成に「説得力」があるか考えよう。	
05	2 追究、交流などの展開 ○教科書P.130、P.131の「学習の窓」で文章の流れを確認する。 ○色分けされた本文から、四色の役割を考える。	《文章の構成》 ・本文に四色で線を引いたものを iPad に送る。疑問、答え・意見、根拠・事実、推論の四色がどのように色分けされているか確認する。
15	「～なのか」「～だろうか」の文末が多い緑色は、疑問で、見たものや研究で分かったものは、事実や根拠になるところだと思う。 ○説明の仕方の工夫を探す。個人→小集団→全体 ・黄色の線が多く、根拠・事実が沢山ある。根拠や事実があると、自分の意見ではないから、客観的に見ることができると思う。 ・問いがあり、答えがあり、それに対する根拠が四つの問いに必ずある。 ・本論全体が筆者の主張の根拠になっているのではないかな。 ・共通点の多いイースター島の事例を出すことで、現在の地球と比較ができ、筆者の主張が理解しやすい。	予想されるつまづき ・四色の線が理解できず、説明の工夫が分らない。 ・どこから手をつけていいのかわからない。
30	3 深める展開 ○文章の構成に「説得力」があるか、考える。 ・現在の地球と共通点が多く、対比させて考えることができるイースター島の事例を出すことで、筆者の主張に説得力をもたせている。 ・疑問に対して、自分の考えばかりではなく、事実や根拠があることで、読む人に「なるほど」と思わせることができるから「説得力」がある。	☆C→B への手立て ☆説明の工夫が分らない生徒には、色分けされたものを見て、何色が一番多いのか、それは何の役割かを気付かせる。 ・「イースター島の事例がなく、現在の地球の話をいきなりされたら、どうか。」と問い、現在の地球との共通点の多いイースター島を事例に出すことで、筆者の主張が理解しやすくなることに気付かせる。 ☆自分が「なるほど」と思う部分は何か探してみよう促す。 ・事実や根拠があり、客観的に見ることができることで「説得力」のある文章になることに気付かせる。
	4 学習を振り返る活動 文章の構成に「説得力」をもたせるためには、自分の考えだけではなく、その基となる根拠や事実を入れることが大切である。現在の地球と共通点の多いイースター島の事例を出すことで、筆者の主張に「説得力」をもたせていることがわかる。	評価基準(ノート・交流) 【思考・判断・表現】 ○文章の構成について、「説得力」があるかを根拠立てて、自分の考えをまとめている。

国語科指導案

1 単元名 筋道を立てて 『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、論を支える意見と根拠の関係に注意しながら、構成や展開を捉え、文章を読んだり書いたりする。具体的には、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を押さえたりしながら、さらに大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割を捉えていく。また、書かれている事実(根拠)が書き手の意見とどのような関係にあるのかなどを捉えることが、文章の内容を正確に理解することにつながる。

また、本単元は、根拠を示して説明するという「書く」ことから、話題や展開を捉えて話し合うという「話すこと」、「聞くこと」、さらに、仮説検証型の説明的な文章を読むという「読むこと」の四つの指導領域から構成されている。そのため、指導にあたっては、それぞれの教材を関連付けて学習させていくことで、より実践的な力を育成することができると考えられる。『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」の学習で生かしたことをもとに、資料を引用しながら自分の考えを相手に伝える発表原稿を書くことを初めに伝え、見通しを持って学習に取り組ませていく。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

説得力のある文章は、自分の意見とその根拠が明確であり、「検証の目的」「検証の方法」「結果」「考察」「その結果出てきた問題点」のように、論理を展開している文章であり、読者はなぜ筆者の意見が成り立つのか理解して読むことができる。

本時は、動画を視聴し、そこから仮説を立て、その仮説を証明するために必要な実験と期待する結果を考える学習活動を行う。そうすることで、筆者のように、ある現象について仮説を立てて結果を見通した実験によって立証するという思考プロセスを理解し、そこにある論理の展開の効果を考えさせていく。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

本単元では、文章を読むときに、文章の構成や論理の展開とその効果を意識させることを目的とし、筆者の考えの進め方により、読者にどのような印象を与えるか考えさせる。読者が納得するような説得力のある文章にするために、筆者がどのような工夫しているかを考え、構成や展開によって読者に与える印象が異なることに気付かせていく。また、本単元で学習した内容を生かして、今後、自分の考えを相手に伝えるときにどのような文章の構成、論理の展開にするのか意識して考えられるよう指導していく。

研究内容2 実態分析からの授業改善

・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

本時は、筆者が研究しているシジュウカラの鳴き声に反応するスズメの動画を見ることから授業を始める。そこから、教科書本文のような、仮説を立て実験によって検証していく思考プロセスをイメージして学習に取り組めるようにしたい。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

・1単位時間の評価の位置付けと工夫（自己評価、他者評価、教師評価）

小グループで、仮設の検証実験をいくつか考える中で、互いに評価する場を設定する。さらに、必要最低限の実験はどれかを考えることで、各自の考えを評価し合うことになると思う。

5 本時のねらい

筆者の論の展開の仕方を分析する学習をふまえ、自分たちで仮説を検証する実験とその結果を考える活動を通して、仮説を立てて結果を見通した実験によって立証するという思考プロセスを理解することができる。【知識・技能】

【単元の目標】

【言語活動】

【生徒の実態】
・文章の大きな構成をとらな、内容を理解すること
・自分の意見を文章表現を根拠に
・自分の意見を形成すること
・自分の意見を形成すること
・自分の意見を形成すること

【単元の目標】
・自分の意見を文章表現を根拠に
・自分の意見を形成すること
・自分の意見を形成すること
・自分の意見を形成すること

【学習事項】

1. 前期
「ダイコンは大きな根？」
・段落の役割に注目して、文章の内容を捉える。

「ちよっと立ち止まって」
・作者の主張と事象との関係を探る。

「思考のレヴュー」
・意見と根拠のつながりを考える。

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
- (2) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
- (3) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

筆者の意見とそれを支える根拠との関係を探ることを通して、文章の構成や展開の効果や、説得力のある文章を書く。

第1時(ねらい)	第2時(ねらい)	第3時(ねらい)	第4時(ねらい)	第5時(ねらい)	第6時(ねらい)	第7時(ねらい)	第8時(ねらい)	第9時(ねらい)	第10時(ねらい)
単元の見直しをしよう。 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	筆者が、どのような文章を ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	筆者が、どのような文章を ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	筆者が、どのような文章を ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	筆者が、どのような文章を ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	筆者が、どのような文章を ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	筆者が、どのような文章を ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	筆者が、どのような文章を ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	筆者が、どのような文章を ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	筆者が、どのような文章を ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること
【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【学習活動】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること
【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【本時の展開】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること
【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること	【評価】 ・自分の意見を文章表現を根拠に ・自分の意見を形成すること ・自分の意見を形成すること

- (1) 知識・技能
原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2) ア
- (2) 思考・判断・表現
文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(3) エ
- (3) 主体的に学習に取り組む態度
文章の構成や展開について粘り強く考え、学習課題に沿って文章を書くことができる。

7 本時の展開(5/10)

時間

学 習 内 容

研究内容とのかかわりや指導援助等

00 1 課題をつくる展開

○本文に書かれている実験以外に筆者が行った観察動画(シジュウカラの「タカが来たぞ」という声[機械再生音]を聞いて飛び立つスズメの動画)を視聴して、どんな仮説が立てられるかを考える。

- ・スズメとシジュウカラは言語が同じなのではないか。
 - ・スズメはシジュウカラ語を理解できるのではないか。
 - ・スズメはシジュウカラ語を学習できるのではないか。
- <仮説>
- ・スズメは学習能力がありシジュウカラ語を理解している。

- ・動画を見て思いつく限りの仮説を立て、実験によって検証できそうな仮説を選ぶ。《仮説・検証》
- ・動画には何か記録されていたかを確認する。《事実》
- ・スズメの群れ
- ・スズメは成鳥
- ・シジュウカラの「タカが来た」の声
- ・声の後、スズメが飛び立つ。
- ・本文で学習した筆者の検証のしかたを振り返り、自分たちも研究者として発表することを想定して課題化する。《仮説・実験・検証》

08

課題 仮説を証明するために必要な実験と期待する結果を考えよう。

2 追究、交流などの展開

○証明に必要な実験と期待する結果を全員で考える。

<実験> 生まれてからシジュウカラの声を聞いたことがないスズメに聞かせる。

<起きてほしい結果> 無反応

<証明できること> スズメは生まれつきシジュウカラの言葉を理解しているのではない。

- ・初めに、学級全体で、「どんな実験をしてどんな結果が出たら、どんなことが証明できるのか」という思考の流れを確認する。《実験・結果・考察》

18

○小グループで、必要な実験、期待する結果、証明できることを複数考える。

<実験> シジュウカラの別の言葉を機械から再生する。

<起きてほしい結果> 飛び立たない。

<証明できること>

スズメはシジュウカラの声に驚いて飛び立ったわけではない。

スズメはシジュウカラの「タカが来た」を飛び立つ理由にしている。

予想されるつまずき
・実験と結果、そこから証明できることのつながりが理解できない。

☆C→Bへの手立て

- ・実験と結果を提示してやり、証明できることの部分だけを考えさせる。《実験・結果・考察》

28

3 深める展開

○絶対必要な実験、最低限必要な実験はどれかを考える。

- ・生まれてから聞いたことがないスズメが無反応ならば、学習して身に付けたことになるが、スズメとシジュウカラの言語が同じかもしれない。
- ・スズメの「タカが来た」とシジュウカラの「タカが来た」を比べて異なるという結果は必要だ。
- ・「タカが来た」と別の言語の時を比べて「タカが来た」のときだけ飛び立てば、その言葉を学習して理解していると言える。しかし、飛び立った理由が「タカが来た」と理解したからかどうかまでは言えない。

- ・仮説を検証するために最低限かつ絶対必要な実験を考えさせることにより、説得力のある論の展開の仕方について考えさせる。《論の展開》
- ・本文において筆者が検証を2つ行っていたことを確認し、そうした思考プロセスが説得力につながることを押さえる。

45

4 学習を振り返る活動

○仮説を立てて結果を見通した実験によって立証するという思考プロセスを確認する。

スズメは学習能力がありシジュウカラ語を理解しているという仮説を証明するためには、生まれてから聞いたことがないスズメが無反応であること、スズメの「タカが来た」とシジュウカラの「タカが来た」が異なるということ、「タカが来た」のときだけ飛び立てば、その言葉を学習して理解していると言える。

評価規準(ノート)

【知識・技能】

- 仮説を実験によって立証するという思考プロセスで仮説と実験と結果をまとめている。

国語科指導案

1 単元名 筋道を立てて 『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、論を支える意見と根拠の関係に注意しながら、構成や展開を捉え、文章を読んだり書いたりする。具体的には、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を押さえたりしながら、さらに大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割を捉えていく。また、書かれている事実(根拠)が書き手の意見とどのような関係にあるのかなどを捉えることが、文章の内容を正確に理解することにつながる。

また、本単元は、根拠を示して説明するという「書く」ことから、話題や展開を捉えて話し合うという「話すこと」、「聞くこと」、さらに、仮説検証型の説明的な文章を読むという「読むこと」の四つの指導領域から構成されている。そのため、指導にあたっては、それぞれの教材を関連付けて学習させていくことで、より実践的な力を育成することができると考えられる。『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」の学習で生かしたことをもとに、資料を引用しながら自分の考えを相手に伝える発表原稿を書くことを初めに伝え、見通しを持って学習に取り組ませていく。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時は、文章の構成に着目して、文章の流れを確認する。具体的には、「仮説の検証1」と「仮説の検証2」の部分から、「検証の目的」、「検証の方法」、「結果」、「考察・解釈」、「問題点」の5つの観点を抜き出し、それぞれを比較する。そうすることで、10段落がもつ役割や、「仮説の検証1」だけでなく、「仮説の検証2」を行った筆者の意図に気付くことができると思う。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

- ・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

本単元では、文章を読むときに、文章の構成や論理の展開とその効果を意識させることを目的とし、筆者の考えの進め方により、読者にどのような印象を与えるか考えさせる。読者が納得するような説得力のある文章にするために、筆者がどのような工夫をしているかを考え、構成や展開によって読者に与える印象が異なることに気付かせていく。

研究内容2 実態分析からの授業改善

- ・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

本時の導入において、前時の復習を行い、筆者が立てていた仮説を確認し、「仮説の検証1」、「仮説の検証2」の実験によって証明できるかどうかという本時の課題に対する見通しを持てるようにする。

課題追究の視点や方法を明確にした個人追究

本文中で、「仮説の検証1」、「仮説の検証2」について書かれている部分を「検証の目的」、「検証の方法」、「結果」、「考察・解釈」、「問題点」の5つの観点に着目して読み、それをワークシートにある表にそれぞれ抜き出してまとめ、比較する。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

- ・1 単位時間の評価の位置付けと工夫（自己評価、他者評価、教師評価）

自己評価…自分の授業に参加する姿勢を「聴く」、「発言」、「挙手」、「書く」の4つの観点に分けて、「◎」、「○」、「△」の3段階で評価する。また、自分が学習した内容を文章でまとめることで、自分がどの程度理解できたのかを評価する。

他者評価…全体交流を通して、互いがどの程度理解できているかを把握し、評価し合う。

教師評価…全体交流の中で、発問に対してどの程度理解できているかを評価する。また、ワークシートを回収し、課題に対するまとめを評価する。

5 本時のねらい

「検証の目的」、「検証の方法」、「結果」、「考察・解釈」、「問題点」の5つの観点に分類して表にまとめ、比較する活動を通して、「仮説の検証1」、「仮説の検証2」の違いを理解し、10段落がもつ役割や、「仮説の検証2」を行った筆者の意図に気付くことができる。【思考・判断・表現】

【單元の目標】

【勤活鑑賞】

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2) ア
- (2) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C(1) エ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。『学びに向かう力、人間性等』
- 読者の意見とそれを支える根拠との関係を読み取ることを通して、文章の構成や展開の効果を考え、読者のある文章を書く。

[illegible]

7. 本時の展開(3/10)

時間

学習内容

研究内容とのかかわりや指導援助等

00 1 課題をつくる展開

○前時の内容を復習し、本時の学習に対する見通しをもつ。

筆者は、シジュウカラを観察する中で、シジュウカラが警戒する対象に合わせて、「ジャージャー」と鳴くのか、「ピーツピ」と鳴くのかの違いがあることに気づいたため、「ジャージャー」という鳴き声が「ヘビ」という単語を示しているという仮説を立てた。

課題

筆者が行った観察や実験の結果から、仮説が証明されたといえるか考えよう。

07 2 追究、交流などの展開

○本文を読み、「検証1」と「検証2」の内容を観点ごとに表にまとめる。

(個人読み)

○表にまとめたことを全体で確認する。(全体交流)

18

<目的>

・「ジャージャー」という鳴き声が、「ヘビ」そのものを示すのか、それとも「ヘビ」が近くにいることを伝えるためのものなのかの違いがあった。

<検証の方法>

・ただ鳴き声を流すだけか、小枝などを使ってはい上るヘビを表現しているかなどの違いがあった。

3 深める展開

○筆者はなぜ2つの検証を行ったのか。

28

・「検証1」で、「ジャージャー」という鳴き声を再生し、それを聞いたシジュウカラがどう振る舞うのかを観察しても、シジュウカラはヘビを警戒する姿を見せないため、その鳴き声が「ヘビ」を示す単語であると言い切ることができなかったから。

・第10段落から、「検証1」の内容だけでは、筆者の仮説を十分に証明することができなかったと分かったため。

・「検証1」と「検証2」の順序を入れ替えても、筆者の仮説は証明できるが、「検証2」から行うのであれば「検証1」はいらないのではないか。

・そもそも、「検証1」で問題点があったから、「検証2」を行おうと思ったのではないか。

○「検証1」と「検証2」の順序を入れ替えたら根拠としての信頼性はどう変わるか。

・「検証1」を先に行い、それでは「ジャージャー」という鳴き声が「ヘビ」を示すということが言い切れなかったから「検証2」を行ったので、順番を入れ替えてしまったら、そもそも「検証1」は行う必要がないと思う。

・「検証1」だけでは信頼性が低かったから「検証2」を行ったので、順番を入れ替えてしまったら、「検証1」→「検証2」よりも信頼性は低くなってしまうのではないか。

43

4 学習を振り返る活動

筆者は、「検証1」で、「ジャージャー」という鳴き声を再生し、それを聞いたシジュウカラがどう振る舞うのかを観察しても、シジュウカラが何を警戒しているのかが明確にはわからなかったため、その鳴き声が「ヘビ」を示す単語であると言い切ることができなかった。そこで、「検証2」を行ったところ、シジュウカラが「ヘビ」を警戒し、「ジャージャー」と鳴いていることがわかった。

このことから、「検証1」の内容では不十分であったが、「検証2」を行ったことにより、筆者の仮説は証明できたといえる。

・前時の復習から、筆者がどのような仮説を立てていたか、確認する。

・筆者の仮説に対して2つの検証を行っていることに気付かせ、本時の課題につなげていく。

・筆者の仮説が意見となり、仮説の検証が根拠となっているということに気付かせる。

☆C→Bへの手立て

☆「検証1」、「検証2」のそれぞれの内容を簡潔にまとめられるよう、ワークシートに表を作成し、その観点に沿って分類させる。

・本文に書かれている筆者の仮説(意見)と仮説の検証(根拠)の関係に注意しながら、本文を読み取る。《意見と根拠》

・検証の結果と筆者が立てた仮説の結びつきに着目して考える。《仮説と検証》

・「検証の目的」、「検証の方法」、「結果」、「考察・解釈」、「問題点」の5つの観点で表にまとめる。

☆仮説の内容を改めて確認し、それが「検証1」、「検証2」の内容とどのように結びついているか考えさせる。

予想されるつまずき

・「検証1」、「検証2」それぞれの根拠としての信頼性の高さが分からない。

・「検証1」、「検証2」の順序を入れ替えると信頼性が変わるということに気付くことができない。

評価規準 ワークシート

【思考・判断・表現】

●筆者が行った観察や検証の内容を整理し、比較することで、内容の違いを捉え、それぞれの検証が筆者の仮説とどのように結びつくのかを考え、筆者の意図に気付いている。

社会科指導案

1 単元名 国の政治の仕組み

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・国会や内閣を中心とする我が国の民主政治の仕組みや、相互の関係性が理解することができる。
- ・法に基づく公正な裁判の保障があることによって、国民の権利を守り、社会の秩序を維持していることが理解することができる。
- ・三権分立の原則によって、立法・行政・司法のそれぞれが権力を濫用することを防ぎ、国民の権利と自由を保障していることが理解することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの見方・考え方に着目して、主権者である国民がどのような姿勢で政治参加をしていくとよいか、対話的な活動を通じて多面的・多角的に考察・構想したことを表現することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・単元を貫く課題や現代社会に見られる課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、民主主義の担い手として数年後の自分をイメージしながら、主体的に政治に参加しようとする意欲を高めることができる。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、国の政治の仕組みを扱い、国会・内閣・裁判所の仕組みや相互の関係性、国民とのつながりについて理解を深める。前単元では、民主主義の考え方や選挙で国民の意見を政治に反映していることを学習した。その知識を基に、政治には選挙以外の関わり方はないかという視点から単元を貫く課題を「民主政治を実現するために、私たちは政治にどう関わっていくべきだろう。」と設定する。生徒にとって政治は決して身近なものとは言えないが、18歳になれば選挙権を得ることになり、実際に政治との関わりが強くなっていくことは間違いない。そこで、本単元の学習を通して政治に対する興味・関心を少しでも高め、三権分立の仕組みのもとで国民主権を担う公民としてどう政治に関わっていくとよいかという基本的な構えを身に付けさせていく。そのために、基本的な国の政治の仕組みを理解し、明確な根拠のもとで考え、主体的に判断できる力が、これからの社会を生き抜くためには必要不可欠であるということを念頭に置いて指導にあたる。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時まで、国会・内閣の仕組みと国民との関係性や、裁判の種類や仕組みについて学習を進めてきた。本時は、司法制度改革として2009年に始まった裁判員制度を扱い、司法と国民のつながりについて考える時間として設定した。裁判をより身近に感じられるようにすることを目的とし、国がこのような制度をつくり、国民を参加させることについて理解できるかどうか、自分の考えをもち、他者と交流しながら考えを深めてく。制度開始から15年が経ち、制度そのものに様々な課題もある中で、それらの改善策や、自分は今後どのような思いで政治に参加していくべきかについて考えさせていく。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

単元構造図を作成し、単元における付けたい力と単元の終末の生徒の姿をイメージして単元の学習を組み立てた。社会科の見方・考え方については、教科部会で共有し、社会科学習全体を通して意識できるように、汎用性の高いもの（目的・原因・傾向など）と、各分野特有のもの（公民的分野：効率・公正、対立・合意など）に分類して授業中に適宜紹介してきた。単元構造図への位置付けによって、個々の事象を様々な見方・考え方で捉えられるように工夫した。

研究内容2 実態分析からの授業改善

・思考の深まりを生む意図的な交流活動

交流活動は、その目的に応じて様々な形態で実践してきた。考えの妥当性を確かめる場合は席の隣同士での交流、多様な考えを一つのものに集約していく場合はグループ交流といったように適切な交流方法を設定することで学習効果をねらっている。本時は、国の政策に対して理解ができるかどうかという「個々の立場」と「その根拠」を交流することで、多様な考え方があることを実感させたいので、あえてグループを固定せず、自分が話を聞きたい相手のところへ訪ねていくインタビュー形式の交流を位置付けた。交流を円滑に進めるために、iPadを活用して個々の立場を事前に表明させることで、それを見て自分の立場と同じか・違うかをつかんで相手との交流に臨めるように工夫した。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

・学習を振り返る活動の工夫

本時(本単元)の学習のねらいは、「国の政治と自分とのつながり」に気づき、自分はどのように政治に関わっていくかを考えることにあるため、学習の振り返りを記述する際には、客観的に事象をとらえるのではなく、「自分は…」という当事者の視点で記述するように助言をしていく。

5 本時のねらい

裁判員制度で国民が裁判に参加することについて、自分の考えを整理することを通して、制度の目的や意義への理解を深め、国民として主体的に司法に関わっていこうとする心構えをもつことができる。

【思考・判断・表現】

7 単元指導計画 (○…「評価に用いる評価」 ●…「学習改善につなげる評価」 【 】…重点的に働かせる見方・考え方)

	ねらい・学習活動	知 思 態	評価規準(評価方法)
ユ ニ ツ ト ①	①-1 国会の地位や役割を調べることを通して、国民主権が守られていることや慎重に審議する仕組みがあることを理解することができる。 ・国会が国権の最高機関で、唯一の立法機関であることを知り、議員の仕事や国会の仕組みの資料を読み取って、慎重に審議する二院制の仕組みについての知識を身に付ける。	●	●国の政治は選挙で選ばれた国会議員によって進められ、二院制の仕組みにより慎重に審議していることを理解している。 【個人の尊重・民主主義】
	①-2 法律や予算が成立するまでの過程を調べることを通して、二院制の仕組みによって慎重に審議し、衆議院の優越によって、より国民の意見を反映した決定になっていくように工夫されていることを理解する。 ・国会が行っている仕事を知り、審議の過程から衆・参両方の議会で慎重に話し合っていることと、議決には衆議院の優越が認められていることについて知識を身に付ける。	● ●	●国会は慎重な審議を行い、国民の意見を反映した決定を行っていることを理解している。 ●国会が二院制である理由や、衆議院の優越が認められている理由を国民との関係を基に考え、表現している。 【効率・公正・対立・合意】
ユ ニ ツ ト ②	②-1 国会と内閣の関わりに関する資料を読み取ることを通して、行政の働きに対して国会が監視する仕組みがあることを理解することができる。 ・国会が議決したことに基づいて実際に政策を実行する権力が内閣にあることを知り、国会の役割を示す資料から、行政の活動を監視する機能があることについて知識を身に付ける。	●	●国会が行政権との関係の中で担う役割によって行政の働きを監視していることを理解している。 【公正・権利・民主主義・関係性】
	②-2 議院内閣制の仕組みの資料を読み取ることを通して、国会と内閣が互いに抑制し合い均衡を保っていることを説明することができる。 ・内閣は行政機関を通して、法律で定められた物事を実施していることを知り、議院内閣制の仕組みの資料を用いて、内閣が国会に対して連帯責任を負う仕組みになっている理由を考察する。	● ●	●議院内閣制によって国会と内閣が互いに抑制し合い均衡を保っていることを図から読み取り、国民とのつながりを意識して表現している。 【責任・関係性】
	②-3 内閣の役割についての資料を読み取ることを通して、大きな政府として行政改革を行っていることを説明することができる。 ・公務員が「全体の奉仕者」として行政の仕事を行っていることを知り、行政改革に関わる資料を用いて、効率のよい行政を目指していることについて考察する。	● ●	●行政改革が進められた理由について総割り行政などの課題を基に考察し、表現している。 【効率・個人の尊重】
ユ ニ ツ ト ③	③-1 裁判の仕組みについて調べることを通して、国民の権利を守り、公正に裁判を行えるようになっていることを理解することができる。 ・法は私たちの権利を守り、社会の秩序を保つ役割があることを知り、司法権の独立の原則のもと、裁判所が中立な立場で国民の人権を守っていることについて知識を身に付ける。	●	●裁判所の種類と仕組みを基に、裁判所の役割を理解している。 【公正・権利・個人の尊重】
	③-2 民事・刑事裁判に関わる資料を読み取ることを通して、国民の人権を守り、えん罪を防ぐために工夫していることを理解することができる。 ・裁判には民事裁判と刑事裁判があり、それぞれ専門的な知識をもつ者が手助けして行われていることを知り、裁判で不利益を被ることが無いように、国民の権利を守る仕組みがあることを理解する。	● ●	●裁判がどのように行われているのかを整理し、人権を守る仕組みになっていることを理解している。 【公正・責任・個人の尊重】
	③-3 裁判員制度で国民が裁判に参加することについて、自分の考えを整理することを通して、制度の目的や意義への理解を深め、国民として主体的に司法に関わっていくような心構えをもつことができる。 ・裁判員制度を導入した政府の方針について自分の考えを整理し、その目的や意義について理解を深めながら、自分は司法に対してどのように関わっていくのか見通しをもつ。	● ○	●裁判員制度について多角的に考察し、その目的や意義を説明している。 ○裁判員制度どのような姿勢で関わっていきたいか、自分事として考え今後に生かそうとしている。 【公正・権利・義務・選択】
	③-4 模擬裁判で評議する活動を通して、法に基づいて自分の考えをもったり、様々な見方考え方をしたりする大切さに気付くことができる。 ・模擬裁判を通して、法に基づいて論理的に考えたり、公正に判断したりして判決を出す活動を行い、主権者として主体的に社会に関わろうという思いをもつ。	○ ○	○事例について諸資料をもとに多面的・多角的に考察し判決を出している。 ○模擬裁判に意欲的に参加しようとしている。 【公正・対立・合意・結び付き】
ユ ニ ツ ト ④	④ 単元で学習したことを図にまとめる活動を通して、立法権、行政権、司法権がそれぞれの行き過ぎを防ぐために互いに抑制し合いながら均衡を保っていることを確かめ、この仕組みが権力の一極集中を防ぎ、国民の人権を守っていることを説明することができる。 ・立法権、行政権、司法権の相互の関係を図に表して整理し、三権が互いに抑制し合い均衡を保っていることを確かめると共に、権力の集中を防ぎ、国民の人権を守ることにつながることを説明する。	○ ○ 技	○三権それぞれの関係性を図に表してまとめる力を身に付けている。 ○三権が互いに抑制し合い均衡を保つことが、人権を守ることにつながっていると説明している。 【自由・民主主義・関係性・関係付け】

8 本時の展開(8/10) 重点的に働かせる見方・考え方・効率・公正・権利・義務・選択

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等
00	1 導入資料から課題をつくる。 ○司法制度改革として始まった裁判員制度を紹介し、専門知識をもたない国民が裁判に参加することの是非を問い、課題化する。 ・専門知識がないのに、裁判員が務まるのだろうか。専門家が務めた方が効率が良いのではないか。国はどうしてこのような制度を始めたのだろうか。	裁判員制度は18歳以上の国民からくじと面接で選出されるため、自分たちも経験する可能性があるという意識から課題化する。《目的・背景》 ・考えをもつための資料を複数準備し、その中から選択して活用できるようにしておく。(読み取りのヒントを加えておく。)
08	裁判員制度で国民が裁判に参加することをあなたは理解できるか。	予想されるつまずき ・制度そのものの仕組みについて理解不足により、当事者意識をもつことができていない。
16	2 自分の考えをもつ。 ○国民が参加することのメリット・デメリットに着目して選択する。 【理解できる】 ・裁判を身近に感じられるようになるため、利用しやすくなる。 ・裁判が国民にも分かりやすいものになっていく。 ・人を裁くことに関わることで、物事を多面的に見ることができるようになる。 ・国民が参加することで親しみやすい司法制度に変わっていく。 【理解できない】 ・突然選出されて不安で仕方がない。専門知識がないので正しい判断ができるか分からない。 ・わざわざ仕事を休んでまで参加したくない。 ・専門家に任せたら効率がよい。 ・国民が参加しないほうが効率よく裁判が進められる。	☆C⇒Bへの手立て ☆「自分のところに裁判所への出廷通知がやってきたらどうするか」と問い、今の自分と司法の距離感を感じさせる。《関係性》 ・机間指導において、一人一人の立場を捉えて価値づける。「理解できる」生徒には、この制度のねらいに着目して考えるように助言し、「理解できない」生徒には、この制度にどんな問題点があるのかを意識させる。《効率・公正・権利》 ・誰がどちらの立場かわかるように、iPadを活用して電子黒板に示しておく。 ☆交流するとよい相手を指示する助言をしていく。
26	3 資料を参考にして仲間と交流しながら考えを深める。 ○自分の立場を表明し、各々が交流したい仲間のところを訪ねる。 【理解できる⇒できない】への反論 ・国民の一人として、意見していくことは大切だ。 ・仕事を休める制度が整っている。 ・評議は裁判官と一緒に進んでいくため、専門知識は必要ない。 ・国民の普通感覚が必要とされているのだ。 【理解できない⇒できる】への反論 ・他人の裁判は自分にとっては関係のないことである。 ・実際に辞退率が上昇している。やりたくない気持ち強い人も多いのではないかな。 ・判決を出すことは人の人生に関することなので、責任が重すぎる。	・自分の考えと比べ、納得できるか、できないかという視点で交流する。《比較》 ・「裁判員制度はなぜ義務か」と改めて問い返すことで、裁判がより身近に感じられるようにしたいという願いがあるということを捉えさせる。 ・数年後の自分をイメージさせながらどのような行動をとっていくべきなのかを考えさせる。《権利・義務》 ・考えが変わった生徒がいれば、その理由を問い全体に広める。
40	4 全体交流を行い、裁判員制度が義務であることの意義に迫る。 ・辞退率が上昇しているのは気になるが、裁判員を務めた人々はおおむね満足している。 ・多様な考え方を聞き、自分の考えを発信していくことがこれからの社会では求められていくのだと思う。 ・選挙を通して政治に関わっていくのと同じように、裁判員制度を通して司法にも関わっていくことが、民主権を大切にすることの一つの方法である。 ○「あなたは裁判員として迷うことなく参加できるか」と発問する。 自分は裁判員の通知が来たら少し戸惑うと思う。やはり自分に務まるのか不安が大きいからだ。しかし、一人の国民として自分の考えを伝えていくことは大切だし、より裁判が身近に感じられるようになるのだと思うから辞退する理由のない限り参加したい。	・本時と既習の内容をつなげ、単元を貫く課題を意識させる。《関連付け》 ・単元を貫く課題を意識しながら、まとめを記述する。《選択》
44	○三権分立の仕組みの図を示し、裁判員制度がどの部分にあたるのかを確かめ、国民と三権との関係性をおさえる。	
45	5 本時のまとめをする。 はじめは、裁判員制度を開始した国の考えは理解できなかった。専門家のみが裁判を行った方が効率が良く、間違いない判断ができると思っていた。しかし、裁判員を務めた人々の感想などから、国民の感覚を裁判に反映することでより裁判が身近に感じられるようになるという目的に近づくためにはよい制度だと思った。制度そのものの改善すべき点もあるが、自分が選出された場合は、裁判員の義務を全うしたいと思った。	評価規準(ノート記述・発言内容) (◎思考・判断・表現) ○主体的に学習に取り組む態度 裁判員制度について多角的に考察し、自分事として捉えたことを表現している。

社会科指導案

1 単元名 「産業の発達と幕府政治の動き」

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解することができる。
- ・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。近世の日本の基盤が形成されたことを学ぶことを通して、現在との結び付きに気づき、自らの生活につなげようとしている。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、産業の発達と町人文化、幕府の政治展開について学ぶ。産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成された。前単元の江戸幕府の成立と対外政策では、幕藩体制を確立し、大名や百姓、キリスト教を支配することで、幕府が力を強めていったにも関わらず、社会の変動や欧米諸国の接近により、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせる単元である。前単元と比較し、幕府の支配の仕方の変化、改革に着目し、約260年続いた江戸幕府の行き詰まりを読み取らせ、幕府の動揺に気付かせたい。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

単元を貫く課題のもと、前時までには、産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がり、社会の変動や欧米諸国の接近について学習している。本時では、国内外の危機に対しての幕府の政治改革について考える。財政悪化などの背景や、改革の内容、結果などに触れ、幕府と民衆の考えの違いをとらえ、江戸幕府の行き詰まりの理由につなげていく。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

- ・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

単元構造図を作成し、単元のねらいをもとに付けたい力を「江戸幕府が衰退することにつながる背景には、変化する社会とその変化に合った政治が行われていないことをとらえる力」とした。前単元で学習した江戸幕府の支配力の強まりから、本単元の江戸幕府の衰退へつなげるために、重点的に働かせる見方・考え方を単元構造図、本時案に位置付けた。時代の移り変わり、背景をとらえ、前単元と関連付けながら本単元、本時に臨めるようにした。

- ・学習改善につなげる評価を適切に位置付けた単元及び単位時間の指導計画の作成

単位時間が「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」のどちらにあたるのか、付けたい力は何かを明確にした。単元を通して、江戸時代の歴史の流れを捉えさせながら、社会の変動によって幕府政治が次第に行き詰まりを見せていく過程を理解することができるように、4つのユニットで単元を捉えて作成した。

研究内容2 実態分析からの授業改善

- ・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

本時の導入では、社会の変動や欧米諸国の接近など、国内外の危機を乗り越えるため、そして幕府の権力を回復するために立ち上がった人物である水野忠邦を提示する。その水野忠邦がたった2年で失脚してしまった事実をもとに課題化する。生徒が好奇心や探求心をもち課題を解決していくことができるようにICTを活用し、資料を提示しながら導入を行う。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

- ・学習を振り返る活動の工夫

本時のまとめを活動では、本時のキーワードとなる言葉を使用しながら記述すること、また、学んだ事実を書くのみではなく、学びを自分の生活に照らし合わせながら書くことができるように指導した。単元のまとめを書く活動では、ロイロノートにあるシンキングツールを活用しながら単位時間のつながりを意識しながら図やチャートを用いて単元のまとめを書くことができるように工夫した。

5 本時のねらい

わずか2年で失脚した水野忠邦が行った天保の改革の内容を調べる活動を通して、幕府の支配力を回復するのではなく、より社会が不安定になってしまったこと、多くの人々から反感をかったことなどに気づき、幕府政治が行き詰っていったことを考察し、表現することができる。【思考・判断・表現】

7 本時の展開(8/8) 重点的に働かせる見方・考え方<時代・背景・原因>

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等
00	1 導入資料から課題をつくる。 ○これまで学習した、徳川吉宗・田沼意次・松平定信らと、本時で学習する水野忠邦の政治改革の年数を提示し、課題化する。 ・水野忠邦は天保の改革というのを行ったようだが、たった2年の短さで終わってしまった。なかなか政治がうまくいかなかったのだろうか。 なぜ、水野忠邦は改革開始からわずか2年で老中を辞めさせられてしまったのだろうか。	研究内容とのかかわりや指導援助等 ・前時までに行われた改革、また国内外からの危機に対応しなければならぬ状況で行った水野忠邦の天保の改革に視点をあて課題化する。 <背景・比較> ・終末でそれぞれの人物の改革が失敗したポイントをまとめることができるように提示する。<原因・比較>
06	2 課題に対する予想をたてる ・「天保のききんのような大飢饉がおきたのではないか。 ・政治がうまくいかず、百姓一揆や打ちこわしがおきたのではないか。 ・改革が人々の反発したくなるような厳しい内容だったのではないか。	予想されるつまずき ・既習の人物や出来事の内容をつなげて考えることができない。 ・自分の考えを書くことができない
15	3 資料をもとに課題に対する個人追究をする。 ロイロノートのシンキングツールを利用して、自分の考えをまとめる。	☆C⇒Bへの手立て ☆個人追究の前に予想をたて交流する。前時までに学習した改革でうまくいかなかった内容や時代背景をつなげて考えることができるよう、思考の幅を広げる。<原因・背景>
23	4 小集団で交流し、全体交流へつなげる。 自分の考えをシンキングツールで使ってまとめたものをロイロノートの提出箱に提出し、小集団で共有しあう。小集団で完成させたシンキングツールをもとに全体交流を行う。 財政の立て直し⇒水野忠邦は財政の立て直しを行いたかった。そのためには金が必要。贅沢をやめさせ、無駄をなくすために<u>厳しい</u>質素倹約を強化させたことが多くの民衆から反感をかった。 株仲間の解散⇒物の値段があがってしまうのは株仲間で販売を独占していることだという水野忠邦の考え方が間違っていた。株仲間の解散を行うことで、人々の生活をより不安定にさせた。 上知令⇒江戸や大阪の周辺を幕僚にしようとしたが、大名や旗本から強い<u>反対</u>で取り消された。	☆シンキングツールを使うことで、常に課題を意識し、課題解決のための資料読み取りができるようにする。 ☆自分が使いやすいシンキングツールを選択する。 ・民衆の反感、大名や旗本からの反感、幕府からの反対、さまざまな立場にたって読み取ることができる視点を与えておく。<影響・原因>
33	反感・批判・不安定・治安悪化・不景気・効果が上がらない・人々の考え方、時代にあっていない政治 ○他にも、人返しの法、天保の打払緩令和、小説の出版の取り締まりなどを紹介する。	・資料を読み取ることで、2年で失脚する理由となるキーワードをとりあげ、時代背景とつなげることで失脚せざるを得ない状況であることに気づかせる。<時代背景・結果>
40	3 単元を貫く課題について考える 支配を強め、勢いがついていた江戸幕府が、なぜ衰退していったのだろうか。 ・産業の発展や都市の繁栄により社会が変化した、その変化や状況にみあった政治を行うことができなかったから。 ・国内外の危機に立ち向かうことのできる政治改革を行うことができなかったから。	・時代にあった政治を行うこと、どの立場からも賛同をえることのできる政治を行うことの難しさを実感する。 <時代背景・立場・比較>
45	4 学習を振り返る活動 水野忠邦はわずか2年で失脚した。その理由は水野忠邦によって行われた「天保の改革」である。これまでの享保の改革や寛政の改革を手本にして国内外の危機を乗り切ろうと行った改革であったが、大きな成果をあげることもなく、社会に混乱をまねいただけであり、民衆や大名などから反感をかい2年で失脚することとなったことが分かった。この学習で時代にあった政治の大切さやさまざまな立場に立った政治を行うことの大切さを実感した。それはこの時代だけでなく、どの時代にも共通しているであろう。	☆本時のキーワードとなる言葉を板書に分かりやすく提示する。それを使用しながら記述すること、また自分の生活や時代につなげて照らし合わせながら記述させる。 評価規準(ノート記述・発言内容) ○思考・判断・表現 ●主体的に学習に取り組む態度 天保の改革の内容について、幕府政治が行き詰っていったことを考察し、表現している。

社会科指導案

1 単元名 「国の政治の仕組み」

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・国会や内閣を中心とする我が国の民主政治の仕組みや、相互の関係性が理解することができる。
- ・法に基づく公正な裁判の保障があることによって、国民の権利を守り、社会の秩序を維持していることが理解することができる。
- ・三権分立の原則によって、立法・行政・司法のそれぞれが権力を濫用することを防ぎ、国民の権利と自由を保障していることが理解することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの見方・考え方に着目して、主権者である国民がどのような姿勢で政治参加をしていくとよいか、対話的な活動を通じて多面的・多角的に考察・構想したことを表現することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・単元を貫く課題や現代社会に見られる課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、民主主義の担い手として数年後の自分をイメージしながら、主体的に政治に参加しようとする意欲を高めることができる。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、国の政治の仕組みを扱い、国会・内閣・裁判所の仕組みや相互の関係性、国民とのつながりについて理解を深める。前単元では、民主主義の考え方や選挙で国民の意見を政治に反映していることを学習した。その知識を基に、政治には選挙以外の関わり方はないかという視点から単元を貫く課題を「民主政治を実現するために、私たちは政治にどう関わっていくべきだろう。」と設定する。生徒にとって政治は決して身近なものとは言えないが、18歳になれば選挙権を得ることになり、実際に政治との関わりが強くなっていくことは間違いない。そこで、本単元の学習を通して政治に対する興味・関心を少しでも高め、三権分立の仕組みのもとで国民主権を担う公民としてどう政治に関わっていくとよいかという基本的な構えを身に付けさせていく。そのために、基本的な国の政治の仕組みを理解し、明確な根拠のもとで考え、主体的に判断できる力が、これからの社会を生き抜くためには必要不可欠であるということを念頭に置いて指導にあたる。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

前時までに、人権を守るために三審制があること、裁判員制度が導入されたねらいやその仕組みを学習してきている。また、前単元では、政治参加の一つの方法として選挙があり、自分たちの考えを伝えることで、集団の意思決定に大きく影響することを学習した。本時では、NHK for Schoolの昔話法廷「さるかに合戦」を視聴して記入したメモをもとに、iPadやホワイトボードで評議・評決の内容を小集団でまとめ、全体交流の場で発表をする。模擬裁判の評議を体験することで、意見をぶつけ合うことの面白さ、人の意見が人の人生を左右すること、多面的・多角的なものの見方・考え方に気付くことを体感させていく。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

- ・単元におけるつけたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化（単元構想図を参照）

単元を貫く課題のもと、単元における付けたいを設定した。また、働かせる「見方・考え方」を毎時間明確にし、課題追究時に意識付けをさせてきた。本時では、『公正・対立・合意・結びつき』の「見方・考え方」を働かせ個人追究や交流活動に臨むようにする。

研究内容2 実態分析からの授業改善

- ・思考の深まりを生む意図的な交流活動

個人追究後に、班を使った小集団交流（評議）を行う。「死刑にするか」「死刑にしないか」の立場を明確にし、自分の意見をぶつけ合うことで、多面的・多角的に考察し、新たな価値に気付くようにする。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

- ・1 単位時間の評価の位置付けと工夫（自己評価、他者評価、教師評価）

まとめの活動において、個人追究時の考えと交流後の考えを比べ、自己の変容に気付くようにする（自己評価）。iPadやホワイトボードを活用した交流活動において、互いの考えを評価し合うようにする（他者評価）。授業後にノートや学びの地図を集め、毎時間の課題及び単元を貫く課題についての記述を評価する（教師評価）。

5 本時のねらい

模擬裁判で裁判員として被告人が死刑か死刑でないかを評議する活動を通して、法に基づいて自分の考えをもったり、様々な見方・考え方をしたりする大切さに気付く、それを今後の学びや実生活に生かしていこうとすることができる。【主体的に学習に取り組む態度、思考・判断・表現】

8 本時の展開(6/10) 重点的に働かせる見方・考え方…《公正・対立・合意・結びつき》

時間	学習内容	研究内容とのかかわりや指導援助等
00	1 刑事事件の概要、争点を確認し、課題をつくる。 ○さるの犯行、裁判の争点(被告人を死刑にするか、死刑にしないか)を紹介し、課題化する。 ・さるは、硬い青柿をなげつけて、かこの親子3人の命を奪った。検察官は死刑が相当だと考えている。裁判の争点は「被告人を死刑にするかどうか」だ。 さるが死刑か死刑でないかについての模擬裁判を通して、評議をしていくうえで大切なことは何か考えよう。	研究内容とのかかわりや指導援助等 ☆C⇒Bへの手立て ☆登場人物の相関図を提示しながら、刑事事件の概要、裁判の争点を確認することで、裁判での立場(検察側・弁護側)を明確にする。《対立》 予想されるつまづき ・裁判の争点を理解しておらず、自分の考えがもてない。 ・裁判と実生活のつながりに気づくことができない。
06	2 評議で気を付けることを説明する。 3 小集団(各班)で被告人さるは死刑か死刑でないかを話し合い、評決を出す。 ○生徒間共有をし、仲間の考えを見ながら、班としての評決を出す。 ○評決と決め手となった理由を代表者がホワイトボードに記入する。 検察側【死刑】 命で償うべき。処罰感情が強い。 犯罪のない社会にする。 ・子かこは、さるを絶対に許さないと思っている。(死刑を望む) ・仕送りも、償いではなく、ただ罪の意識を少なくするために行っていたのでは。8年間も身を隠し、出頭しなかったのはおかしい。 ・母がかこの何気ない一言に逆上し、執拗に硬い柿を投げ続けた。逃げようとした娘たちもねらって、柿を投げ続けた。あまりにも残酷である。 弁護側【死刑でない】 被告人の今後の人生まで考える。より慎重な判断。更生している。 ・さるの家族のことを考えると復讐ができなかった。(気持ちの葛藤) ・子かこへ毎月5万円ほどの仕送りをしていた。反省をしている。 ・かこの親子に殺意を抱いたのは、母がかこに「ひとでなし」と言われたことがきっかけだった。一番言われたくない言葉に対しての怒りであり、計画性はない。	・評議は大いに迷ってよいこと、途中で意見が変わってもよいこと、相手を言い負かすことが目的ではないことを確認する。《公正・合意》 ☆シンキングツールを活用し、一つ一つの証拠が重いのか、軽いのか、見える化をすることで、自分の考えをもてるようにする。《対立》 自分の立場を明確にして主張したり、相手の主張を受け入れたりできるように問い返す。《公正・合意》 例:「〇〇さんの意見と自分の意見はどこが異なっているのだろうか?」 「〇〇さんの意見に納得できるところ、折り合いがつけられそうなところはないだろうか?」
35	4 各班の意見を聞いた上で、個人で最終評決を出す。 ○ペアで自分の最終評決を発表し合う。 5 『リーガルマインド』の意味を知り、その本質に迫る。 ○「①評決を出すまでに、どの場面で、どのようにリーガルマインドを使ったか。」「②日常生活のどの場面でリーガルマインドを使うことができそうか。」と発問する。 ①・事実と主張を分けて考えた場面。証拠を集めて、証拠を基に考えた場面。 ・争っているポイントは何かを明確にした場面。 ・処罰感情が強く、さるを許さないと言っていた(主張)けど、実際はさるの家族のことを考え、復讐をやめていたな(事実)。 ②・クラスなどの社会集団でもめごとが起きたときに、思い込みや感情ではなく、証拠や事実に基づいて、多くの見方・考え方から問題を解決していけそうだ。 ○5について全体で意見を共有し、一人一人が『リーガルマインド』の本質について考えていく。	☆誤った見方・考え方がないように仲間指導をしたり、評決の決め手となる要素を黒板に提示したりする。 ・『リーガルマインド』が、実生活でどのように生かしていけるのか考えていく。評決で使った場面→実生活で活用できそうな場面、というように段階を踏むことで、実生活に結びつくようにする。《結びつき》
45	6 本時のまとめをする。 模擬裁判では、実際に評議をしたり、各班の発表を聞いたりして、被告人を「死刑にする」か「死刑にしない」かですごく悩み、裁判の難しさを感じた。最初は、子かこの処罰感情が強いこと、8年間も出頭しなかったこと、犯行が残酷であったことから「死刑にする」と判断した。しかし、評議の中で、被告人は深く反省しており、更生をしているため、生きて罪を償っていくべきだという意見を聞き、最終的には「死刑にしない」と判断した。判断には迷ったが、様々な意見を聞くことで多くの見方・考え方があることに気付いた。そして、評決をしていくにあたって、『リーガルマインド』を使うことが重要であると知った。『リーガルマインド』は実生活でも生かせる考え方であり、社会集団でもめごとがあったときには、思い込みや感情ではなく、証拠や事実に基づいて、多くの見方・考え方から問題を解決していきたい。	☆全体で共有した意見を黒板に位置付けることで、実生活に結びつけた記述となるようにする。《結びつき》 評価規準(授業の様子・まとめの記述) ○主体的に学習に取り組む態度 ○思考・判断・表現 模擬裁判に意欲的に参加し、法に基づいて自分の考えをもったり、様々な見方・考え方をしたりする大切さに気づき、今後の学びや実生活に生かしていこうとすることができている。

社会科指導案

1 単元名 「ヨーロッパ州」

2 単元の目標

(1) 知識及び技能

- ・ヨーロッパ州の自然、人口と民族、産業やEUの概要、利点、課題を理解することができる。
- ・EUに見られる国同士の統合をめぐる課題は、ヨーロッパの地域的特色の影響を受けて表出した地球的課題であることを理解することができる。

(2) 思考力・判断力・表現力等

- ・ヨーロッパ州の国同士の統合に関わる課題やその影響を、州の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、その地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野に、国同士の結び付きに関わる課題を主体的に追究しようとしている。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、「世界の諸地域」の第2節に当たる。州の生活を基にそれらの地域的特色を理解し、ここに見られる地球的課題を、その特色と関連付けて多面的・多角的に考察する。その中で、よりよい社会の実現に必要なことについて考える姿を目指す。今回取り扱うヨーロッパ州が抱える地球的課題は、EUに象徴される、国同士の結び付きの在り方である。ヨーロッパ州は、ほとんどが地続きの州であるが、西岸海洋性気候と地中海性気候の2種類の気候や多様な地形といった自然条件、世界大戦を始めとする歴史的要因によって、各国の政治、経済の状況が大きく異なる州である。その状況の違いが、ヨーロッパ州において統合が進められてきた理由であると同時に、統合したEUに不協和音をもたらしてもいる。地域的特色の知識を前提としながら、EU統合を全体として見た時の多様なメリット、それぞれの国の状況を通して見た時の避けがたいデメリットを生徒に気付かせ、国同士の結び付きの在り方について、深く思考を巡らせることができるようにしていく。

(2) 生徒の実態

(3) 本時の指導について

本時は、イギリスのEU離脱について話し合う中で、国同士の空間的相互依存関係に気づき、よりよい結び付きについて自分の考えをもつことを目指す。生徒の実態から、EU離脱の「目的」や小国の「依存」の見方は働かせられると期待できるが、「空間」の見方を用いる支援が必要である。見方・考え方と地図を板書に位置付け、「イギリスの場所から考えるとどう？」といった空間に関わらせた問いを用いて思考を求めていく。後半では、現在のイギリスとEUの状況を示し、統合の問題は現在も存在すると気付かせたうえで、「EUは今後も統合を進めていくべきだろうか」と発問する。そうすることで、国同士の結び付きについて思考を深め、ねらいに迫ることができるようにする。

4 研究内容との関連

研究内容1 単位時間の役割を明確にした単元指導計画や単元構造図の作成

・単元における付けたい力と働かせる「見方・考え方」の明確化

本単元の付けたい力を「地理的要因から発生する地域的特色の違いに基づいて、国同士の結び付きに関わる動きを捉え、望ましい在り方を考える力」とし、重点的に働かせる見方・考え方を単元構造図、本時案に位置付けた。国や地形、気候の位置や分布を全体的に捉える「空間」の見方を働かせるために、地形や気候、国際協力の下でのSDGsの施策、国民総所得の違いやその背景についての知識や見方・考え方を段階的に位置付け、連続性をもたせて本時に臨めるようにした。

・学習改善につなげる評価を適切に位置付けた単元及び単位時間の指導計画の作成

単元を学習内容ごとにユニット1～4に分け、生徒の定着度を確認しながら授業を進めることができるように、学習改善につなげる評価を単元の前半(ユニット1, 2)に位置付けた。後半のユニットにおける思考に必要な知識の定着度を確かめ、指導の修正を図ることができるようにした。

研究内容2 実態分析からの授業改善

・課題解決の見通しや学ぶ意欲をもたせるための導入の工夫

本時に至るまでに、EUには長短両面があることを学習している。それを土台として、「イギリスのEU離脱」に立ち帰ることで、その是非に対する思考を生み、課題化する。これまでに用いた「目的・空間・依存・国際協力」を導き出し、「比較」を通して考えの根拠を見つけ出せるようにする。

・思考の深まりを生む意図的な交流活動

生徒自身の手応えに基づき、小集団を3～4人の3種類に分ける。集団を選択することで、交流への意欲を生み出し、意図を共有したうえで、課題を追究するという前提を常に大切にしていく。全体交流では、さらに考えを広げ深めるために、「イギリスの支援を当てにするのはおかしくないだろうか?」、「孤立するという意見はどう思うか?」など、互いの主張を基に問い返しをしていく。

研究内容3 自己の変容や学びを実感させるための評価の工夫

・1単位時間の評価の位置付けと工夫(自己評価、他者評価、教師評価)

所属する小集団を選択する際に自己評価するタイミングをもつ。また、互いの意見を交流する中で他者からの評価を得る。さらに、まとめの記述の際に、ファシリテーターを中心として小集団内の優れたまとめを見つける活動を加え、まとめを評価し合い、学びの自己調整を図っていく。

5 本時のねらい

イギリスがEUを離脱した判断の是非を考えることを通して、島国という地形や経済的に豊かな国であるという地域的特色から、EUのメリットを受けづらいう状況であったことに気づき、国同士の関係の在り方について考え、表現することができる。【思考・判断・表現】

6 単元構図 (O)「評定に用いる評価、●「学習改善につなげる評価」の両面を示す、《》内、重点的に働かせる見方・考え方 ①～⑦の活用するために定着を見届ける知識・つながり)

単元のねらい・前文参照

【付けたい力】
地理的要因から発生する地域的特色の違いに基づいて、国同士の結び付きに関する動きを捉え、望ましい在り方を考える力

第5時 単元のまとめ [O思・判・表] [O意・判・表] 《結び付き、空間》

○単元の学習を振り返り、単元を貫く課題の答えを追及することを通して、国家間の結びつきに関わるメリットやデメリットについて、それぞれの国の地域特色に基づいて捉え直し、事元を貫く課題を解決する動きがあるのほなせか。
ヨーロップ州において、EUとしてまとまったり、離れたりする動きがあるのほなせか。

第4時 EUが抱える課題 [O知・授] 《文化・分布、空間・依存》

EUは、EUが抱える課題 [O知・授] 《文化・分布、空間・依存》
EUは、EUが抱える課題 [O知・授] 《文化・分布、空間・依存》
EUは、EUが抱える課題 [O知・授] 《文化・分布、空間・依存》

EUでは、統合によってどのような変化や課題が見られるのか。

EUには、いくつかの課題がある。まず、①西ヨーロッパの国は国民総所得が高く、東ヨーロッパは低い。これは、①2.4.4. 歴史や気候、歴史が産業に影響しているからだと思う。また、産業の発展した一部の都市に、力が集中し、その国の国民が働けなくなっている。①.15. 地続きですぐに移動できるメリットの影で、そして、EU圏内では、②加盟国が多くなり、なかなか話がまとまらなくなっている。それぞれの国の事情がある中で統合するのは課題を生み出すのだ。イギリスの離脱はこのことに関わりがあるのかもしれない。

第2時 ユーロ圏の歴史と自然、人口と民族、産業の特色や環境 [O意・判・表] 《目的・地域・発展》

○ユーロ圏の歴史と自然、人口と民族、産業の特色や環境 [O意・判・表] 《目的・地域・発展》
○ユーロ圏の歴史と自然、人口と民族、産業の特色や環境 [O意・判・表] 《目的・地域・発展》

EUが統合した目的は何だろうか。

EUが統合した目的は、まず、④二度と戦争をせず、平和を維持することだ。また、⑤国境を越えた技術協力、商品やサービス、労働力、資金などを国境を越えてやり取りすることだ。さらに、それによって国民生活の向上、教育や医療の充実、言語や宗教が異なる国々で暮らすことができるようになることだ。統合すると、ヨーロッパの⑥国境がなくなり、政治、経済、文化が一体になることが目的なのだ。

ヨーロップ州は、どのような地域なのだろう。

【単元の入り口の生徒の感想】

アジア州での学習を通して、アジアの各地域について、それぞれの気候や地形、人口の多さや資源などの地域特色を生かした発展が進んでいることが分かった。特に、半導体などのハイテク産業や、情報通信技術などの工業的な分野を進めている地域が、急速な発展を果している。一方で、発展に伴う環境問題や都市問題なども各地で発生しており、持続可能な社会に向けて課題が残っている。ヨーロップ州はアジアよりも進んでいるイメージがあるけれど、どのような地域なのだろう。